

2020年9月11日
北近畿経済新聞(6面)に掲載されました

人生の「ねじ」を巻く
77の教え

日東精工株式会社

23 職場の仲間は
あなたの内面を映す鏡
素直に耳を傾けたいこと

人間の目は、何かに映してでなければ自分を見ることができません。シェイクスピアの悲劇『ジュリアス・シーザー』の中には、「目は己を見ることができぬ。なにかほかのものに映してはじめて見えるのだ」というブルータスの台詞がありますが、昔も今も変わらぬ箴言と受け止めてください。

私たちは朝、出勤する際、鏡を見ます。ネクタイがゆがんでいないか、あるいは髪が乱れていないか、鏡を見ながら身だしなみをチェックします。このように鏡を映し出してはじめて、私たちは自分で自分を見つめることが可能になるのです。

けれども、外面的なことはそれでいいとして、内面的なもの、自分の性格とか態度とかが、人さまにどんな印象を与えているか、あるいは影響を及ぼしているかは、なかなかかわからないものです。

コミュニケーション心理学で、よく話題になる「ジョハリの窓」というモデルがあります。①自分もわかっていて他人もわかっていっている一面、②自分はわかっていて他人にはわかっていない一面、③自分では気づかずにいるが他人には見えている一面、④自分も他人も気づかずにいる一面を、十字の仕切りのついた四つの窓にたとえています。いわば相互啓発ですね。

心理学者ジョセフ・ルフトとハリ・リンガムさんの名前を組み合わせた「対人関係における気づきのモデル」ですが、とくに③については、仲間からの指摘がなければわかりません。私たちは、これを遠慮せず指摘し合えること。また、指摘を受けたものは、素直に受け止められるようにすることを心がけています。それができているかどうかは、二五項で説明するような「従業員満足度意識調査」で検証しています。

職場の仲間は自分の内面を映す鏡の役割をしてくれると再認識しておきましょう。

※「人生のねじを巻く77の教え」より転載

人生の「ねじ」を巻く77の教え

日東精工株式会社 企画室

ひとつ欠けても、成り立たない。「ねじも」会社も同じです。



人生の「ねじ」を巻く77の教え

著者 日東精工株式会社 企画室
発行所 株式会社ポプラ社
1,000円(税別)で販売中